

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPPO



September 2016
No.763



子どもといっしょにどこいこう 親子で川遊び体験(見附市)
講座終了後「またいっしょにあそびにいこうね!!」といった会話が聞かれました。

4~5 特集 公民館の思想

新潟医療福祉大学 副学長・社会福祉学部長 丸田 秋男

CONTENTS

- 2………… トピックス 関ブロ・全国大会参加レポート
- 3………… 視 点 熊本地震と「子ども支援」 新潟県立大学子ども学科 准教授 植木 信一
- ひろば 「まち歩きガイドを楽しむ」 新潟市白根地区公運審議長 高橋 直廣
- 掲 示 板 平成28年度「にいがた生涯学習県民フォーラム」開催予告
- 6………… 実践記録シリーズ 「ジュニアリーダーMAX」 阿賀町公民館
- 7………… サークル交流 「総合作品展への出品を目指して」(長岡市) / 「民謡に思いを込めて」(胎内市)
- 素 顔 拝 見 渡辺 真司さん(上越市) / 市川 大地さん(妙高市)
- 8………… お元気ですか 「ファイン サンキュー!!」 出雲崎町・近藤 佐敏さん
- ネットワーク
- information

TOPICS

関ブロ・全国大会参加レポート

関ブロ・全国公民館大会が8月25日(木)〜26日(金)に神奈川県相模原市を会場に開催されました。

両日とも前日までの台風の雨が上がり、晴れとなりましたが気温は34度超の猛暑日でした。



暑い中、会場案内に立つ相模原市公民館職員

午後からの開会式前にはアトラクションとして「方言劇」が披露されました。雰囲気ですトリーは分かりましたが、方言なのでほとんどのセリフは理解できず残念でした。出演の大人に混じって、小学生2人が懸命の

演技をしていたことが印象的でした。



小学生2人

開会式セレモニー後は、基調講演とパネルディスカッションが行われました。

基調講演の講師は、7月の新潟県公民館大会(妙高市)で講演をいただいた「牧野篤氏(東大教授)」でした。プログラムの運営上なのか、講演時間がわずか45分という短さで講師が話のまとめに苦慮している様子でした。



興味深い発表 那覇市・宮城氏



駆け足の講演 牧野氏

パネルディスカッションは開始の冒頭に進行役コーディネーターが「15分しかありません」で始まりました。

パネラーの3人がそれぞれ実

践発表をした時点で15分経過。10分延長を試みたもののまらまず時間切れになりました。沖縄県那覇市の宮城潤氏の発表は、指定管理者という立場の発表で、内容が興味深かっただけに大変残念でした。



まとめに苦勞 進行役 神奈川大・齋藤氏

閉会行事では、次期開催地・群馬県公連会長の佐藤由美子氏

が力強い挨拶を行いました。夜は、レセプションがあり、賑やかな交流が行われました。

今回の新潟県参加者は合計17名でした。来年は開催地が新



役員席の佐藤氏



新潟県勢のテーブル

潟に近くなりますので多くの参加者があればと期待しています。(田原)

ひろば

「まち歩きガイドを楽しむ」

新潟市白根地区公民館
運営審議会委員
議長 高橋 直廣



白根大風合戦場で、「あんなきれいな大風をなげ川に落としちゃうの?」「今の勝負どっちが勝ったの?」という声を観戦客から聞かされた。白根大風の技や合戦のルールや楽しみ方がわかれば、数倍楽しめるのと思うこともしばしば。

そんな時、風合戦まち歩きガイド養成講座生募集の記事が目にとまり、早速受講。一年間の講座を修了したメンバーで今年三

月、「しろね大風タウンガイド」という市民グループを結成。世界一の大風合戦と歴史ある街並みが残る町屋をガイドと銘打って、今年の風合戦からガイド活動を開始。皆緊張しながらも、感触は良く、いい評価もいただき、ガイドをやってよかったと実感した。

白根で生まれ育った私でも養成講座などを通して、歴史的な町屋が数多く残っているなど、

目からウロコの新発見が数多くあった。今後もガイドのスキルアップとコースのバリエーションを増やすなどして、多様な求めに応えられるガイドをめざしたいと思う。

皆さんも白根のまち歩きはいかがですか? 新潟市南区観光協会のHPをぜひチェックしてみてください。

視点



新潟県立大学子ども学科
准教授 植木 信一
(ueki@unii.ac.jp)

熊本地震と「子ども支援」

熊本地震の被災地である熊本県益城町の小学校で、定期的子ども支援プログラムを進めています。一般的に「子ども支援」というと、おとなが子どもに対してボランティアをするようすを想像するのではないのでしょうか。ところが、避難所となった小学校では、早い時期から子どもによるボランティアが活躍していました。なぜでしょうか。

子どもたちにとってみれば、非日常とはいえ自分たちの居場所

所であった小学校が避難所となつて地域の方たちが入ってくるかたちとなり、必然的に案内係などの役割意識が芽生えたのだと思います。小学校のことは毎日通っている子どもたちのほうがよくわかっているのです。また、地域のおとなたちも、そのような子どもボランティアたちの活躍ぶりを目の当たりにしながら、少しずつ元気を取り戻していたようでした。

現在は、避難所が閉鎖され、地域全体が日常を取り戻しつつあります。しかし、被災した子どもたちが日常を取り戻すためには、やはり、地元のおとなたちの

寄り添いが重要な要素であると思うのです。今後は、地元のおとなたちが地元の子どものかわりながら、ともに地域を支えるシステムの構築が急務となつてきます。

公民館活動にかかわっていると、これらのシステムは被災地だけに限定されることではなく、本来の地域社会に必要なシステムであることに気がつきます。熊本地震における「子ども支援」は、私たちが地域で果たすべき役割についても教えてくれるのです。

掲示板 HOT NEWS

平成28年度「にいがた生涯学習県民フォーラム」開催予告



新潟県教育委員会では生涯学習県民フォーラムを開催します。
 期日：10月28日(金)、29日(土)
 会場：県立生涯学習推進センター
 新潟市中央区女池南3-1-2
 内容：28日(金)講演会 講師 辻井いつ子氏
 ピアニスト：辻井伸行氏の母
 29日(土)起震体験車、非常食試食

- 高校生発表、遊びのひろば
- 挑戦のひろば、お話の部屋
- 佐渡伝統芸能「春駒」
- 講演1「最新脳科学と赤ちゃん」
- 講演2「暮らしと防災」
- その他
- *内容は8月現在の予定。9月に詳細な開催案内が公開されます。

特集

公民館の思想



新潟医療福祉大学
副学長・社会福祉学部部長
丸田 秋男

はじめに

公民館が、現代社会の抱える地域課題の解決に向けて機能することが求められて半世紀になる¹⁾。この間、公民館はどのような役割と責任を果たしてきたのか。また、『今こそ、従来の「目前主義」から脱却し、ネットワーク型行政の推進を目指す』という第6期中央教育審議会生涯学習審議会の議論の整理(平成25年1月)を、どのように受け止めるのか。私は、以前から一貫して「公民館は固定化された役割を超え、自治会、社会福祉協議会、NPO等の関係団体とプラットフォームを形成し、地域課題の解決に取り組む」²⁾よう主張してきている。本稿は、あらためて、公民館の価値の再形成と公民館関係者の意識改革を求めるメッセージである。

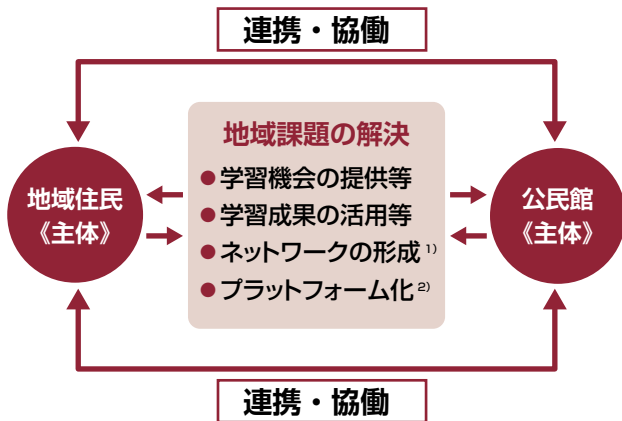
公民館の目的は、何を指すのか

公民館の目的は、地域住民の生活文化の振興であり、社会福祉の増進である(社会教育法第20条)。言い換えれば、地域住民が住み慣れた地域で自分らしく心豊かに暮らし続けることであり、個人の権利や自己表現が保障され身体的・精神的及び社会的に良好な状態を増進することである。つまり、公民館が多目的な「学習機会の提供」、「学習成果の活用」等といった表現は、あくまでも公民館の目的を達成するための手段や方法の説明である。手段や方法を目的に擦り替えて事業の妥当性を説明することは間違いである。公民館が行うすべての事業や活動は、その目的に照らして点検・評価し、改善されなければならない性格を有していることを指摘しておきたい。

公民館の主体は、まず、地域住民あり

公民館の主体は、地域住民である³⁾。その生活の中に地域住民の抱える生活課題や地域課題があるという認識が原則となる。「主体－客体」の関係でいえば、学習ニーズを持つ個人を「客体」として捉え、学習ニーズを充足する制度上の施設「公民館」を「主体」とする考え方は適切でない。つまり、学習機会や学習情報の

提供を公民館から個人への「役割期待」とし、「役割の実行」として学習成果の活用等を個人に求める関係を見直す必要がある。この原則を見失うと、目的を達成するために、行う事業実施に関するスキルやマニュアルに偏りが生じ、地域住民のニーズの捉え方に大きな勘違いを生じさせることになる。ニーズの捉え方は後述することとし、ここでは地域住民の主体形成に向けた認識図式を示しておきたい。



1) 地域課題ごとに機能する個別のネットワークをいう
2) 多様な主体によるプラットフォームづくりをいう

図 主体形成の認識図式(イメージ)

地域課題をどう取り上げるか

「地域住民の想いと願いを大切にする」

公民館は、地域住民の抱える地域課題をどう取り上げるのか。公民館は、自らの考え方や経験、専門性等に照らして判断したニーズに基づいて学習機会の提供や学習成果の活用等を促進していかないだろうか。このようなニーズの捉え方を規範的ニーズ（ノーマティブ・ニーズ）というが、真の意味での地域課題のニーズ把握は、地域住民が日々の暮らしの中で「○○と感じている」「○○したいと思っている」「○○であつたらいいと願っている」という主観的ニーズ（フェルト・ニーズ）を丁寧に掘り上げることが原則となる。ある全国レベルでの研修会でのエピソードである。スキルにニーズのある人を合わせるのではなく、その人のニーズにスキルを合わせるものが原則であると伝えたところ、主催者から「新鮮な視点である」とコメントされた。当たり前のことが新鮮に思われることに違和感を感じたが、公民館においてもスキルやマニュアルを重視する風潮が見られるのではないか。もし、そつであれば、地域住民に対する無条件の敬意と温かな関心を持ち、地域住民の生活の中にあるニーズ（想いと願い）を探し出すことを大切にしたい。

地域課題をどう解決するか「一緒に取り組む」

公民館が、自らが捉えた規範的ニーズに基づいて地域課題を設定し、学習機会の提供や学習成果の活用等を促進することは、悪意のない「住民操作」⁽⁴⁾で

あるともいえる。このような事業実施は、公民館の「目前主義」ともいわれ、地域住民の価値形成や地域の絆づくりと活力あるコミュニティ形成を妨げていることを自覚しなければならぬ。地域課題の解決を志向する公民館は、自らの考え方や経験、専門性等を超えて「同じこと」を、同じ場所で行い、同じ時間を過ごす「こと」を大切にしたい。そのプロセスを通じて、気づいたことを出し合い、分からないことや知りたいことを共に学ぶパートナーシップが原則となる。

公民館の立ち位置は

「地域住民と社会資源との間に立つ」

公民館は、主体である地域住民とそれを取り巻く環境（地域住民の生活文化の振興や社会福祉の増進に関係する公私の社会資源のすべて）との間に、自らの立ち位置を置いているだろうか。この視点が確立されていれば、公民館には「目前主義」などという評価は起こり得ない。法制度や固定された役割を超え、目的を共有するあらゆる公私の社会資源とネットワークを形成し、地域課題の解決に向けて連携・協働するのは当然のことである。公民館のメインストリームは、地域住民と社会資源との間に立ち、自らの社会教育機能、地域コミュニティ等の住民自治機能、社会福祉協議会等の地域福祉機能、子ども・障害者・女性・高齢者等の総合相談機能とのプラットフォームを形成し、地域課題の解決に取り組むことである。

私たちの役割は

「心豊かに自分らしく生きるために」

では、私たち地域住民に求められる役割は何か。故・河合隼雄氏は文化庁長官（平成14年1月～平成19年1月）の在任中に「住み慣れた地域で心豊かに自分らしく生きるために、地域にとつてよいことに取り組み」という考え方を提唱された。地域にとつてよいことは、地域住民の生活文化の振興であり、社会福祉の増進にほかならない。今こそ、公民館の価値を再認識し、地域住民としての主体形成を図り、自らが心豊かに自分らしく生きるために、公民館と一緒に住み慣れた地域のまちづくり（地域コミュニティの再生）に取り組むたい。

（注）

- (1) 社会教育審議会建議「公民館の充実振興方策について」（昭和42年6月23日）を参照。
- (2) 丸田秋男「生涯学習社会の実現に向けて」（1）
- (3) 「いがた生涯学習」、第419頁421号、平成23年、新潟県生涯学習協会を参照。
- (4) 文部次官通牒「公民館の設置運営について」（昭和21年7月5日）を参照。
- (5) アメリカの社会学者シェリー・アーンスタインが提唱した「市民参加の梯子」を参照。

222

ジュニアリーダーMAX

阿賀町公民館

実践記録シリーズ

【ジュニアリーダーMAXとは】

ジュニアリーダーMAXは阿賀町内7つの小学校から参加者を募り、年間通して自然体験活動を中心に、歴史と文化、自然と食をテーマに心身の健全育成、仲間づくりの促進と青少年リーダーの養成を目的にした活動です。

【企画にあたって】

自然溢れる阿賀町内での活動を基本に3つのテーマを中心とした事業を企画しました。

◆ 地域資源と歴史文化を知ってもらう

◆ 魅力ある自然を堪能

◆ 世代間交流を通して人と人とのつながりを実感

講師には各集落・地域から様々なジャンルでの名人を招き、その技術と「人となり」に触れ、「本物」を学んでもらうことにしました。また自然の中での活動から自然と共生していくための知恵と知識を育み、環境保護についても学んでもらいました。



わら細工体験教室

【講座プログラム】

平成27年度 参加登録者66名(男子40・女子26)

回	実施日時	内容
1	5/9(土)	開講式・オリエンテーリング
2	6/20(土)	笹団子作り&あそび塾
3	7/18(土)・19(日)	防災キャンプ&マリンスポーツ
4	8/22(土)・23(日)	アウトドア&テント泊
5	9/19(土)	ウォーキング教室(一般との合同開催)
6	11/14(土)	わら細工体験教室
7	12/12(土)	切り紙教室(一般との合同開催)
8	1/31(日)	料理教室
9	2/27(土)・28(日)	スキースノーボード体験
10	3/12(土)	ワールドカフェ・閉講式

【講座の様子】

第2回目開催の「笹団子作り&あそび塾」小学生低学年対象講座との合同開催でもあり、参加児童とその保護者、講師、スタッフの参加人数が120名を超え、会場となった阿賀町公民館

講堂内は大変な騒ぎと盛り上がりを見せ、仕上げた笹団子の数量は販売業者さん並となりました。

第3回目



笹団子作り

開催の「防災キャンプ&マリンスポーツ」では災害時を想定し、火おこし体験やドラム缶風呂体験、阿賀野川での水難救助体験などを実施しました。ハプニングあり、驚きあり、笑いありの活動となり「絆」を感じることができた2日間となりました。



ドラム缶風呂

【講座を振り返って】

各活動とも高校生ボランティアである「公民館サポーターズクラブ」の参加があり、活動中での交流からそれぞれが自主的に何かを感じ、お互いに学んでいます。高校生は自分の知識や経験を引き継ぎ、その姿を見た小学生はこれからの自分の理想像を見出すきっかけとなり、双方にとつて存在価値を確認できる機会となっています。

【今後について】

これからも地域の中から価値ある文化や伝統を吟味し、世代間交流を継続しながら、出会いと発見の場を公民館活動として提供し続けていきたいです。そして学びと感性を融合させ楽しく喜びに溢れる公民館を目指していきたいと思えます。(阿賀町公民館 清田 亮)



総合作品展への
出品を目指して

だるま表具の会

当会は、表具の制作を趣味とする教員退職者のサークルです。先輩から手解きを受けた者が指導者となり、後輩を指導する形で30年以上続いています。現在9名で、月2回定例会とし、中央公民館を借りて制作に励んでいます。

表具にする本紙は自分でかいた絵や書、また家族、知人等の作品、市販の絵手ぬぐいなど様々です。

分からない時は指導者や先輩に聞くなど、秋開催の教員退職者のだるま総合作品展への出品を目指します。この作品



展も今年で35回を数え、絵画、書道、工芸、写真等約150点が出品されます。

ここでサークル相互の作品の交流、お互いの評価等が大きな楽しみ、励みとなっています。

長岡市・だるま表具の会
保科 博昭 記

民謡に思いを込めて

さんげん会

「さんげん会」の名の通り、三味線の会です。週1回の練習には、唄、尺八、太鼓の人達と一緒に、楽しく賑やかです。

これまで音がうるさいという理由で会場を変えたり、夜の



胎内市さんげん会
桐生美砂子 記

練習を昼に変えたりして続けてきましたが、昨年4月からは田んぼの真ん中にできた「ぎ」と交流館」で練習ができるようになりました。夜間の練習も再開し、現役で働いている若い人達の参加も増えました。

ボランティアで演奏する機会もあり、練習にも熱が入ります。また、三味線の楽譜はあっても実際に演奏するときは見ないで弾くので覚えなければならず、良いポケ防止になっているのではないかなと思っています。

民謡が次の世代にも繋がっていく事を願っています。

妙高市公民館(妙高市教育委員会生涯学習課)

主事 市川 大地さん



昨年4月から公民館事業を担当する市川大地さんをご紹介します。市川さんは職場の若手で、係では最年少の職員です。

いつも元気いっぱい、職務に努め、各種講座の参加者からも頼りにされています。

市川さんが担当する「妙高はねうまカレッジ『まなびの杜』」は、市民の皆さんに広く「まなび」の機会を提供することを目的に、今年度から始まった生涯学習講座で、初年度から多くの受講生を集め、好評をいただいています。

講座は、土・日曜日の開催もあり、休日も働く姿に、プライベートも楽しめているのか「心配」をしています。(もはや年配の同僚というより、親視線！)

そこら辺は、イマドキの若者ですので、IT機器(古い?死語?)を駆使し、うまくやっていることでしょう。公私ともに充実させ、これからも何事にも一生懸命取り組んで行って欲しいと思います。そして、受講生だけでなく、多くの市民に頼りにされる職員になることを期待しています。

(妙高市公民館(妙高市教育委員会生涯学習課)山口 修 記)

上越市社会教育課

主事 渡辺 真司さん



「はい、社会教育課渡辺です」電話が鳴るたびに、はつらつとした声が響き渡ります。今年度採用され、社会人として一步を踏み出した渡辺さんは、公民館講座や公民館作品展などを担当しています。担当する公民館講座では、多くの方から参加していただくことに喜びを感じながらも、地域の方のニーズに沿った取組となっているか、次年度に向けてどう活かすかなど、日々考えながら業務に当たっています。

休日の過ごし方は、DVD鑑賞や市内の有名ラーメン店に出かけるとのこと。皆さんのまちで、おすすめのお店がありましたら、是非、紹介してあげてください。

市民に対して、親切丁寧に対応するよう心掛けている渡辺さん、これからの活躍に期待しています。

(上越市社会教育課 主任 近藤 洋介 記)

素顔拝見

ネットワーク



関プロ 分科会発表

2ページのトピックスで紹介した関プロ神奈川大会では、大会2日目の分科会で新潟県代表の三条市中央公民館・阿部修三さんが発表を行いました。

約80名の分科会参加者の前で、30分間の堂々とした発表でした。発表は「ぎっかけの一步事業」で、その内容はパ

ワーポイントで工夫して提示され、分かりやすい発表になりました。発表後の質疑応答では、ほとんどの質問が阿部さんに集中して参加者の関心の高さを伺える良い発表になりました。

お・元・気・で・す・か
「フライン サンキュー！」

近藤 佐敏 (出雲崎町)



64歳で引退する迄は仕事は厳しく、遠くへの転勤もあり、地区の公民館活動に参加する余裕は有りませんでした。

2年前の春、町の公民館から英会話教室の参加者募集がありました。私の中学生時代の英語教育は戦後のドサクサが残って居たとはいえないからみればまことに粗末なもので、もう時効ですが中学3年時の英語教師にとつて一番大切な事は英字を美しく書く事でした。当然英語を話す授業は無し。

私にとつて最初のカルチャーショックは高校1年の同級生がアメリカ人と英語で会話をするのを目の当たりにした事でした。進学した高校の英語の水準に追いつくには2年

英語が母国語の外国人講師から英会話を教わる現代の小中高校生は幸せだとつくづく思います。今は私も幸せですが・・・そして元気です！

※お元氣ですかのコーナーは投票をりたりした方がその後も更に活動している様を紹介するコーナーです。

講師は明るく元気で褒め上手なナダ人のポール。生徒は私が最年長で年齢、職業はバラバラ。講師と同様明るく元気な人はかりで雰囲気は最高！毎回冒頭には各自日常の出来事を発表。勿論英語で！授業時間を大幅に超えることもしばしば。折々には懇親会も開催し親交を深めています。

は掛かりました。そこで積年の恨みを晴らすべく(笑)海外旅行の予定もなく、外国人と会話する当ても無いのですが、英会話教室に参加申し込みをしました。

information

第16回新潟県社会教育研究大会田上大会

期日：平成28年10月21日(金)
 会場：湯田上温泉「ホテル小柳」
 主催：新潟県社会教育委員連絡協議会
 内容：1 講演 新潟中央短期大学 准教授 小川 崇氏
 「社会教育の課題と社会教育委員の役割」
 2 分科会と協議
 3 分科会(担当：上越市、津南町、佐渡市)
 担当：新潟県社会教育委員連絡協議会事務局
 県生涯学習推進課内 担当：猪俣 TEL 025-280-5616

農業・農村が日々の生活を支えています

農業・農村は、安全・安心な食料を安定的に供給するとともに、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的な機能を有しています。

本県農業・農村振興の取り組みに対する県民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

新潟県市町村農業農村振興対策協議会
 会長(糸魚川市長) 米田 徹
 新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
 TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

事務局長のつぶやき

最近のポケモンGOの騒ぎを聞くと、日本の未来は明るくないと感じる。

青少年だけではなくいい大人までが、自分がどこにいても忘れ、一心に画面を見つめている姿は異様だ。新潟市内でも

目立つようになつた。あちこちに棒くいのように立って、一人ポケモンに熱中している。そして「実に楽しい」と言う。「もつと他に楽しいことがあるでしょう」と言っているのだが、人が楽しいと言っているのだから大きなお世話なのだろうが。(田原)